

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぼれっこ倶楽部		
○保護者評価実施期間	2025年2月13日		～ 2025年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 10名
○従業者評価実施期間	2025年 3月10日		～ 2025年3月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 16日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所の中だけでなく、外部との関り（アルバイトやボランティア、子ども発達のスーパバイズを入れるなど）があること	事業所の中だけでなく、外部との関り（アルバイトやボランティア、子ども発達のスーパバイズを入れるなど）を行っている	今後もボランティアとのつながりを作っていくためや、受け入れの基盤づくりのために職員間の学びの場作りを行っている。
2	室内を自由に改装等が行える	感覚統合遊びがしやすいように室内ブランコの取り付けやボールプールを作成するなど	ブランコ遊具を子どもたちの個性に合わせながら組み替えたり、バランスストーンの導入などを考えていく。またクールダウンスペースを新たに環境づくりを行っていく
3	保護者の方たちが事業所の運営や活動に理解がある	夏の期間は焼肉などのイベントに保護者の方が来られても大丈夫なように設定したり、スーパバイズを受けるタイミングで一一緒に勉強会を行ったりしている	昨年度実施したような勉強会などを開催しながら保護者の方がそれぞれ話ができるような父母会作りなどを行っている

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の中で考えていることや、取り組みが伝わっていない	・情報発信が弱い ・活動の意図や子どもにとって必要だということを伝えきれていない	活動の様子を情報発信できるツールとしてアプリ（コドモン）の活用をすすめていく
2	放課後等デイサービスとして義務や制度について等を家族や本人が知る機会が少ない	・制度について知る機会が地域全体として少ない ・相談支援専門員の方との情報共有が足りていない	制度について勉強する機会や職員が学んだことを発信する機会、学ぶ際に活用した資料や本の貸し出しなどを行っている
3	児童館などとの関りが少ない	・刺激の弱い子どもたちが多く、ぼれっこ倶楽部から出た先での活動などが限られてしまっている。 ・利用時間が遅い子どもが多いことで平日はあまり外に出る活動を組むことができていない	ぼれっこ倶楽部にお客さんが来ることは子どもたちが慣れてきているため、ボランティアの受け入れ等を通して外部の人との関りを増やしていく。また、個別で児童館に付添いながら活動をしていくなどを今後検討していく。

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日				回収数	
ほれっこ倶楽部		2024年3月24日				10	
		利用児童数 2025年3月10日 12名					
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	10					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	8			2		個別サポートが必要な子どもが多い為、 職員の配置は工夫をしています。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	9			1		2024年5月にお休みをもらって構造化を 意識した環境設定をしましたが、今後 も改善が必要だと考えています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	10					
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	8	2				子どもの個性や特性について本人・家族 に説明する機会を今後意識的に行ってい きます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	6			2		3月に支援プログラムをHP上で公表しま した。内容は適宜にてお知らせ予定で す。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	9			1		ご家族のニーズと子どものニーズが混 ざってしまう場面がある為、今後は意識 的に整理を行います。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	9			1		今年度から新しい基準に基づいた個別支 援計画を作成しています。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	8	1		1		ご家族にほれっこ倶楽部の意向などを伝 えていける場面を作っていきます。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	8	1		1		活動の様子を積極的に伝えていけるツ ールを考えます。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	3			6		児童館などの交流はありませんが、法人内の 自立援助ホームのこどもたちとの関わりはあり ます。今後も続けていく予定です。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	8	1		1		利用者負担などはそれぞれの世帯によって変わるこ とや、報酬改定で変更することがあるので、今後も 必要に応じて説明を行っています。
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	9			1		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	9					
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	9					
保 護 者 へ の 説 明 等	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	8	1				
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	8	1				
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	5	2				
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	7	1				
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	7	1				
	21 定期的に運営やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	8	1			白票 1	
	22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	9					
非 常 時 等 の 対 応	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7	2				
	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8	1				
	25 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	7	2				
	26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	7	2				
満 足 度	27 こどもは安心感をもって通所していますか。	9					
	28 こどもは通所を楽しみにしていますか。	9					今後も子どもたちが楽しく通所して もらえるよう活動を工夫していこうと思 います。
	29 事業所の支援に満足していますか。	9					

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	ぼれっこ倶楽部		公表日		2025年 3月 24日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	1	個別対応が必要な子どもに対してのスペースを作っています。	死角が多いことでスペース活用がしきれていないので、今後改善が必要です。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切か。	5		個別サポートが必要なこどもがいることを考慮した職員配置になっています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。	4	1	活動別にスペースを分けている	玄関前が階段のため、バリアフリー化が進んでいない。必要な場所への手すりの設置ができていない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。	4	1	週に一度清掃日を設けるようにしています。	部屋の構造上、死角が多いため利用定員よりも少ない人数での受け入れになることが多いので今後改善が必要です。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することができているか。	4	1		クールダウンスペースが足りていない。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）が実施されているか。	5			ミーティングで話すことができています。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会が設けられているか。	5			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5		不定期だがミーティングを開催している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2	月に1度、スーパーバイズを受ける機会を設けている	
10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人研修に参加しているか。	5				
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと関わり合っているか。	5			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援センターと連携しているか。	5			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿って実施されているか。	3	2		職員間で意図や意向について話す機会が不足している。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いた評価を行っているか。	4	1	日々の行動観察した結果を記録として残している	記録したことについて整理する機会が少ないため改善が必要

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	ぼれっこ倶楽部		公表日		2025年 3月 24日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインを踏襲しているか。	3	2		職員間で意図や意向について話す機会が不足している。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		ミーティングで全体に決めることはできている	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		各自の工夫だけに偏らないように、保育の本の購入や共有を行う機会を作っています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせているか。	4	1		職員間で意図や意向について話す機会が不足している。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援内容を共有しているか。	3	2		全員ではないため、改善が必要
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援内容を共有しているか。	2	3	LINEworksのグループを活用し、情報共有や必要時には振り返りを行っている。	終了時間が異なるので支援共有を口頭で行うことはできていないが、全員ではなくても気になったことは話すことができています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・評価を行っているか。	5			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の進捗を確認しているか。	5			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を踏襲しているか。	5			
関係	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、	5		活動の場所を目的別に分けていることでこどもが選びやすくなるように工夫しています。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との連携を図っているか。	5		ぼれっこ倶楽部へモニタリングに来られた際には児発管だけではなく、多様なスタッフが対応できるように工夫しています。	外部で開催されるときには児発管だけが参加する機会が多いため今後は調整して参加できるように工夫していきます。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、	4	1		全員ではないため、改善が必要
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの	5			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童	4	1		これまで全員やれていたわけではないので今後は行っていく必要があります。

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	ぼれっこ倶楽部		公表日		2025年 3月 24日		
係機関や保護者との連携	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	1		これまで全員やれていたわけではないので今後は行っていく必要があります。	
31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5					
32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	4	法人内の自立援助ホームの若者との関りはあります。	地域の子どもと関わる機会づくりは必要になっています。		
33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	2	3	市内の福祉関係者で行う事例検討会には積極的な参加を行っています。	協議会への参加について今後工夫していきます。		
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5					
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		家族と職員が共に学ぶための機会を設けています。			
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	1	職員、本人、家族それぞれの制度についての理解が不足しているため勉強会の開催等を行っています。	職員の学びが不足していて丁寧な説明をすることが難しい時があります。現状は児発管から個別で説明していますが、全体に説明できるように学ぶ機会を設けていきます。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5				
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5				
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5				
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等	5		勉強会(子どもの発達についてや、制度について等)を開催し、保護者と職員と一緒に学ぶ機会を設けています。		
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5				
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用する	5		不定期ですが通信の発行を行っています。		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		システムを導入した際にはぼれっこ内のWi-Fi下でないとアクセスできないようにするなど工夫しています。		
44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5					

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	ぼれっこ倶楽部		公表日		2025年 3月 24日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	3	積極的にボランティアの受け入れを行っている。	町内会への積極的な参加を行っています。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル	5			策定しているものを周知しきれていない部分はあるため、改善が必要です。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生	5		年に2回避難訓練を行っています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を	5		年に1度、子どもの服薬状況やアレルギーについて再確認を行い、緊急搬送の際に提供できるように準備をしています。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づ	5			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必	4	1	安全計画の作成を行いました。	安全計画を共有する機会を設けることが必要です。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう	4	1		安全計画を共有する機会を設けることが必要です。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策に	4	1	共有はLINEworksで行っています。	時間を取って振り返る機会を設けていきます。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な	5			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組	4	1		現在必要な利用者はいないが、今後は検討が必要である。	